

- 1 日 時 令和4年11月9日(水)
- 2 生徒数 男子9名 女子6名 計15名
- 3 単元について

## 【単元観】

本単元は、本校の総合的な学習の時間の第2学年の探究課題のうち、「地域で働き、地域の発展に力を注ぐ人々」を受けて設定した。単元を貫く問いを「人は何のために働くのか」として、実際に安芸太田町内や広島県内で働く人々の話を聞いたり、自分の就きたい職業調べをしたりすることを通して、「働くために必要なこととは何か」について考えてきた。

コロナ禍の状況を受けて、実際に地域の企業に職場体験を行っていくことは難しい状況もあり、本単元では、体験型教材「インターン (INTERN)」を活用しながら、企業が単に利益だけを求めているのではなく、企業としての社会貢献も考えていることを知り、働くことの意味を深めていく。具体的な活動体験や調査活動、仲間との真剣な話し合いを通して学び合い、自己の生き方を具体的、現実的なものとして考える単元とした。

## 【生徒観】

将来への焦りや不安などから自分の目標を見つけれなかった生徒が、安芸太田町内で働く人の話を聞き、「人との出会いの大切さや、将来や仕事に対する考えに共感した」という記述が見られた。

職業調べ学習では、将来就きたい職業を具体的に挙げられる生徒はほとんどいなかった。生徒にとっての身近な職業人である家族や近所に住む人の仕事や自分が興味をもっている仕事の範囲から職業観を広げることができず、多様な職業に触れる機会が少ないことが課題として挙げられる。

「人は何のために働いていると思うか」という問いに対して、自分のため(46.2%)、お金のため(30.8%)と回答している生徒が多く、社会のためと回答した生徒は15.4%であった。狭い勤労観の中で働くことを考えている生徒が多い。

また、仕事に関する知識において、裁判官、調理師など、大まかな認識しかもっておらず、経理や事務職など細分化された職業についての認識が乏しく、職業観や勤労観を広く持たせる取り組みの必要性が感じられる。

## 【指導観】

本単元の中心的な活動を、自らの勤労観を見直したり、自己の生き方につなげていたりしていくこととし、2つの小単元で構成するとともに小単元ごとの学習活動において資質・能力を発揮する生徒の姿を想定した。

小単元1は、最初に、安芸太田町内やさらには広島県内で働く人々の話を聞いたり、職業調べをしたりすることを通して、「働くために必要なこととは何か」について考える学習場面である。単元の導入において、「働くために必要なこととは何か」という生徒からの問いを中心に据え、地域で働く人々の職業への思いや信条などの話を聞いた上で、職業調べ学習を行い、働くことの意味について考えた。個人の職業への思いや働くことの意味は拡充していったが、一方で組織(企業・地域)のために働く人や組織(企業・地域)を支える人の願いや思いについて考えが深まらなかった。このことを受けて、小単元2では、実在する企業と疑似的なやり取りを行い、広い職業について探究的な見方・考え方を働かせて、生徒自身が主体的に学習できる体験型教材「インターン (INTERN)」を用いて、企業の理念や思いに触れることで自らの考えを見直し、自己の生き方につなげていく考える学習場面を設定した。体験型教材「インターン (INTERN)」は、実在する企業(カルビー、大和ハウス工業、富士通など)の「インターン募集」動画を見て、自分の志望する企業に自己PRなどを含めたエントリーシートを書くというところから始まり、実際に自らの志望した企業に関するアンケート調査やインタビュー調査を行い、調査レポートにまとめるという活動を基に、様々な観点から「働くこと」について考え、探究的に学習できるような構成となっている。「自分が社会にどう関わっていきたいか」を主体的に考えていくことをねらったプログラムである。このプログラムを活用することは、新型コロナウイルスの影響で職場体験学習が行えない代替というだけでなく、へき地であっても実在する企業と疑似的なやり取りを行い、広い職業について知り、企業が社会にどのような価値を生み出しているのかを考えていくことを通して、安芸太田町でこだわりを持ちながら働いている人々の思いと企業の役割を重ねて考えることで、自らの勤労観を見直したり、自己の生き方につなげていたりしていきたい。

#### 4 単元の目標

地域の仕事や、様々な仕事に取り組む人々に関する探究的な学習を通して、働くことの意味と自身の生き方との関わりに気づき、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。

#### 5 評価規準

知識・技能	働くことの意味について、収入を得るため以外にも、自分自身や他人のためになっていること、地域社会のためになっていること、それらは自己の成長とともに見いだすことができることに気付いている。
思考・判断・表現	他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	仕事と自分の関わりに関心を持ち、今後の学習や生活の在り方を積極的に考えている。

#### 6 本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい生徒の姿
これまで (20/25)	地域で働いている方や県内で働いている方から「働く上で大切なこと」について話を聞き、働くことへの関心や考えを深める。	地域の方や県内で働いている方の仕事観や思いに気付いている。
	自らの関心のある職業について調べ、その職業での「働く上で大切なこと」を自分の言葉でまとめる。	仕事と自分の関わりに関心を持ち、他者に自分の考えが伝わるように、まとめている。
	実在する企業（カルビー、大和ハウス工業、富士通など）の「インターン募集」動画を見て、自分の志望する企業に自己PRなどを含めたエントリーシートを書く。	各グループで問いを見出し、課題達成に向けて見通しをもっている。
	自らの志望した企業に関するアンケート調査を行う。 アンケート結果から読み取れることをまとめる。	他者に自分の考えが伝わるように、目的に合わせて情報を分類したり、効果を意識して表現方法を組み合わせたりしている。
本時	企業の目指している姿とアンケート調査の結果とを比べて、気づいたことをまとめ、発表する。	分析したアンケート結果を関連付けながら、企業の社会的役割について考えている。
単元のゴール	「働くこと」について、考えたことや思いを、表現する。	これまでの学びを振り返り、自己の変容を自分なりの表現方法で発表している。

## 6 本時の展開

### (1) 本時の目標

集計したアンケート結果を観点に沿って分析することを通して、企業の社会的役割について考えを深める。

### (2) 学習の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
3分	1 本時の目標の確認		
アンケート結果をもとに、各企業の社会的役割について考えよう。			
5分	2 【情報の交流】 整理・分析したアンケート結果について、どのようなことが言えるかグループの内容や状況を報告する。	これまで作成した掲示物などを活用させ、視覚的に情報を共有できるようにする。	
企業の目指している姿とアンケート調査の結果を関連付けながら、「社会の役割」をまとめ、発表する。			
25分	3 【グループ協議】 【情報の分析1】で話した内容と、企業の資料を基に、自分たちの企業を他のグループにどのように紹介するか話し合う。	他のグループへ自分たちの考えを効果的に伝えられるような工夫をさせる。	分析したアンケート結果を関連付けながら、企業の社会的役割について考えている。
12分	4 【発表】グループごとに発表を行う。	各グループ3分程度の持ち時間で発表するように指示する。	
期待する生徒の反応			
それぞれの企業が何を大切にしているかをアンケート調査の結果と関連させて話し合っている。			
<p>例 大和ハウスでは、すべての人が心豊かに生きる暮らしとそのような社会の実現を目指している。アンケート調査の結果から、〇代では〜〜〜ということが分かり、大和ハウスの事業(商品・サービス)の〜〜〜と関連している。</p>			
5分	5 本時の振り返りを行い、次回の見通しをもつ。	振り返りシートを書かせ、次回のイメージをもたせる。	